第１号議案

令和２年度（2020）事業報告書

令和２年４月１日から令和３年３月 31 日まで
特定非営利活動法人こども自然公園どろんこクラブ

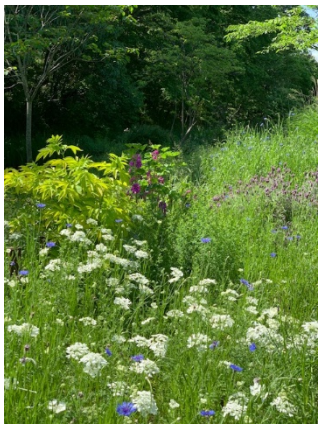
１、　各事業の報告

①こども自然公園自然体験施設の維持管理に関する事業

【雑木林のあるエリアの管理目標と総括】
管理目標：１、安全管理２、生物多様性に配慮した管理３、フィールドを安全に活用するための管理
総括：
・雑木林エリアの枯れ木の伐採を中心に行ない、落下枝や倒木等の危険を未然に防ぐよう努めた。特に、カシノナガキクイムシの食害が拡大しており、調査と伐採を早急に実施した。
また、今年度は、薬剤等を使用せず、市民レベルで比較的簡単に実行できる研修を、神奈川県森林組合の協力のもと、どろんこクラブの管理地を実習地として実施した。

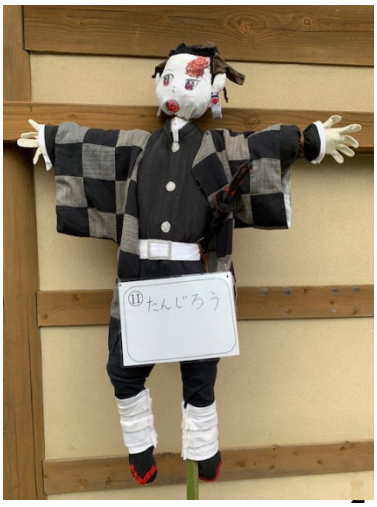
・前年度に引き続き、オーバーユース等による人的な圧を回避するための散策路を完成した。
【湿地のあるエリアの管理目標と総括】
管理目標：１、安全管理２、管理手法の見直しと実施３、生物多様性に配慮した管理
総括：
・園路に面している部分の管理作業として、①バタフライガーデンの設置②アスレチックに向かう親子や、散歩の高齢者の往来が多い場所でもあり、見本園としての機能を持たせながら管理をするための里山ガーデン作りを進めた。
また、一昨年の緑化フェアからの移植のカキツバタやノハナショウブゾーン、古代

米による湿地管理エリア（４番池、５番池）等、新たに山下公園や港の見える丘公園のバラ園からの入れ替え等によって生じるバラを受け入れ、バラを楽しむゾーンを作った。
園路を歩く親子連れ等は、花をバックに記念写真を撮影したり、花の名前をスタッフに尋ねたり、ここの花を楽しみに散歩されている様子に触れ合うことが多くなってきている。



・平成 30 年度末にアスレチック側からの流入堆積土砂の泥上げ工事後の、池の上流部の経過観察、生物調査を実施した。

【水田エリアの管理目標と総括】
管理目標：１、生きものいっぱいの田んぼづくり
総括：
・今年度は、コロナの影響で小学校が水田活動を見送った。
・上流側の水田の耕作休止が生きものへどの程度影響したのかは不明だが、少なくとも陸生の雑草が生い茂り、土は固くしまっている状況をみると、水田を水田として機能させるためにも、湛水という管理は必要なことだと思う。
・今年度も、水田参加者によるかかしコンテストを開催。たくさんのユニークなかかしたちが、来園者の方を和ませていた。



【畑エリアの管理目標と総括】
管理目標：１、農薬や化学肥料に頼らない畑づくり２、畑の整理整頓
総括：
・今年度も、農薬や化学肥料に頼らず、畑全体を有効に使い、いろいろな作物を育てられた。

②環境保全等に関わる調査、研究、企画、提案、実践事業
【事業の総括】
・雑木林の植生調査…雑木林内の環境変化をはかるため、植生調査を実施した。
・年間を通して野鳥観察を続けることができた。
・年度末には、調査データをまとめ、報告会を予定していたが、新型コロナの影響で実施することができなかった。

③地域の環境と農文化に根ざした水田、畑づくりに関する事業
【事業の総括】
・新型コロナの感染拡大により、3 月から 5 月にかけて緊急事態宣言が出され、年間の自然体験コースも、その期間はお休みとなった。緊急事態宣言が解除された 6 月 1 日以降、1 年間を通して親子で水田づくり、畑づくりが体験できる年間登録コースを開催した。
・例年では、種まき等から参加者やボランティアに協力をしてもらうが、今年度は事務局で準備をしてきた。
・コロナ渦のためか、参加者の参加率が高く、屋外で体験できる自然体験が求められているのを実感した。
・活動の方法も、屋外での活動とはいえ密にならない等の工夫をせざるを得なかったが、意外にも従来の方法よりもスムーズだったり、新たな発見ができ、次年度以降の参考になった。

④身近な自然の普及啓発に関する事業、その他
【事業の総括】
（指定管理業務）
・水田、畑づくりに関する事業と同様、コースのスタートが 6 月 1 日以降となったが、参加者の期待が高く、年間の活動量は少なかったが、皆さん熱心に参加をしてくれ、身近な自然に触れあってもらうことができた。
・「どんど焼き」
コロナ禍の中での開催ではあったが、その場で楽しむことは控えていただいたが、お飾りのお持ち込みも年々ルールを守ってくださる方が増えてきており、大きな混乱もなく、粛々と進めることができた。

・「梅の花茶屋」
緊急事態宣言中ということもあり、例年のような開催はできなかったが、梅の花の観察会とお餅のテイクアウトで、密にならない開催の工夫をした。

・「レストハウス内の展示」
レストハウスも、緊急事態宣言時には閉館となり、また触って楽しむものは一時引き上げているため、見るものに限られているが、コロナが落ち着いたらまた楽しめる展示等を工夫したい。
・自然観察会（9 月～3 月）
（鳥の観察、どんぐりの観察、梅の花の観察など）

（指定管理業務以外の行事等）
・「ヨモギゼミナール」緊急事態宣言中のため自粛
・「さくら茶屋」緊急事態宣言中のため自粛
・「こどもの日まつり」緊急事態宣言中のため自粛
・「旭ジャズまつり」への協力　コロナのため延期
・「さとやまハチミツワンデーカフェ」9 月開催
・「パークデイキャンプ」12 月開催
・「絵本の読み聞かせ」12 月開催
・「朝ごはんサミット」2 度目の緊急事態宣言中のため自粛

その他、公園の指定管理業務で培ったノウハウを活かし、公園内外にて自然体験活動を実施した。

① 旭区役所および保土ヶ谷法人会との連携（帷子川環境学習）
今年度は、コロナの感染拡大防止のため、全校 ZOOM を使ったリモート学習に切り替え実施した（5 校 5 回実施）

② 近隣幼保小学校遠足の企画、提案、実施。校外学習でこども自然公園へ訪れた園や小学校への環境学習の協力。

11 月 6 日（金）南本宿小学校 4 年生（雑木林の管理について）
11 月 10 日（火）浅間台小学校（草木染め、クラフト、池の生きものについて）

↑池にいる外来種のエビの話とアクアボトル作り
←桜山に増えているセイタカアワダチソウを除去

２、　事業内容

①こども自然公園自然体験施設の維持管理に関する事業
〇内　　容　公園利用者や事業参加者が安全に利用、活動できるよう、安全対策や危機管理を行なった。
〇日　　時　通年
〇場　　所　こども自然公園

②環境保全等に関わる調査、研究、企画、提案、実践事業
〇内　　容　公園内および周辺の生物や自然環境の情報収集を行ないながら、現状に即した保全の方法を企画し提案し、生きものが豊かに生息する環境作りを行なった。
また、市民、学校、企業、行政等の依頼をうけ、環境保全に関する情報提供や各種調査等の支援を行なった。
〇日　　時　通年
〇場　　所　こども自然公園

③地域の環境と農文化に根ざした水田、畑づくりに関する事業
〇内　　容　横浜に残された数少ない谷戸田の風景や地域に伝わる農文化を継承しながら、公園内の自然の産物（落ち葉等のたい肥づくりなど）の循環を基本とした水田や畑の作業を行なった。
〇日　　時　通年
〇場　　所　こども自然公園

④身近な自然の普及啓発に関する事業

○内　　容

ａ、地域の自然の未来を担う世代育成のため、観察会等自然に関わる総合的な体験事業。

ｂ、自然体験事業の中で生産されたものの地域還元。

ｃ、ホームページやSNSを通じた情報発信。

○日　　時　通年

○場　　所　こども自然公園

活　動　計　算　書

［税込］（単位：円）

ＮＰＯ法人こども自然公園どろんこクラブ　　自 令和2年 4月 1日　至 令和3年 3月31日

【経常収入】			
【指定管理費】			
指定管理費		10,242,500	
【寄付金】			
寄　付　金		676,983	
【事業費】			
環境保全等	30,000		
身近な自然の普及	61,000	91,000	
【預金利息】			
預金　利息		2	
雑　収　益		215,807	
【経常収入】　合計			11,226,292
【経常費用】			
【活動費】			
（人件費）			
人　件　費	7,404,788		
退職金積立	110,000		
旅費交通費	477,504		
厚生年金、健康保険	506,296		
労働　保険	54,766		
（人件費）　合計	8,553,354		
（事業費）			
物品購入費	451,631		
行事保険料	20,160		
（事業費）　合計	471,791		
（事務費）			
通信費	181,792		
会議費	29,126		
事務用品、消耗品	843,388		
税理士報酬	253,074		
事務諸経費	301,815		
施設賠償保険	52,750		
AEDリース料	92,070		
（事務費）　合計	1,754,015		
（租税公課）			
印紙代	1,050		
消費税	429,200		
（租税公課）　合計	430,250		
（予備費）			
（予備費）　合計	0		
【活動費】　合計		11,209,410	
【管理費】			
経常費用　計			11,209,410
当期経常増減額			16,882
税引前当期正味財産増減額			16,882
法人税、住民税及び事業税			48,600
当期正味財産増減額			△ 31,718
前期繰越正味財産額			△ 614,199
次期繰越正味財産額			△ 645,917